

< 平成 1 8 年度中間期の決算概要 >

中間期においても住専勘定が黒字に転化、引続き多額の納付金計上

平成 1 8 年度中間期の債権回収実績は 2 , 3 5 1 億円（前年同期 3 , 5 1 3 億円）となった。回収額に占める取立等益は 9 9 0 億円（前年同期 1 , 6 0 9 億円）となり、貸倒引当金の戻り益等を計上した結果、預金保険機構への納付金算定額（資本注入業務を除く）は 1 , 1 2 7 億円（前年同期 1 , 2 4 3 億円）となった。

これを主要勘定別にみると、特例業務勘定（破綻金融機関等からの譲受債権の管理勘定）及び金融再生法 5 3 条勘定（健全金融機関等からの買取債権の管理勘定）は、取立等益が引き続き高水準を維持したことなどから、預金保険機構への納付金算定額は、特例業務勘定では 7 8 5 億円、金融再生法 5 3 条勘定では 3 4 2 億円となった。

住専勘定については、平成 1 1 年度以降貸倒引当金の繰入れを主因に赤字基調にあったが、平成 1 8 年度中間期において初めて貸倒引当金の戻り益を計上したこと等から、平成 1 7 年度決算に続いて税引前中間純利益 1 9 7 億円の黒字を計上した。

この他、企業再生業務、信託業務、民間サービサー業務等のその他業務においては税引前中間純利益で 6 億円の黒字を計上した。

この結果、当社全体の平成 1 8 年度中間期における損益としては 2 0 6 億円の黒字（前年同期 2 6 6 億円の赤字）となった。